

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.45 Spring 2020

アジサイの仲間のシンボル
とも思える飾り花がなく、
派手な感じではありません
が小さく優しい感じがする
花をたくさん咲かせます。



コアジサイ

今号のトピックス

- ・森の仲間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (2p)
- ・この人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・酒井雅章さん (3p)
- ・サテライトの土間の三和土の修繕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4p)

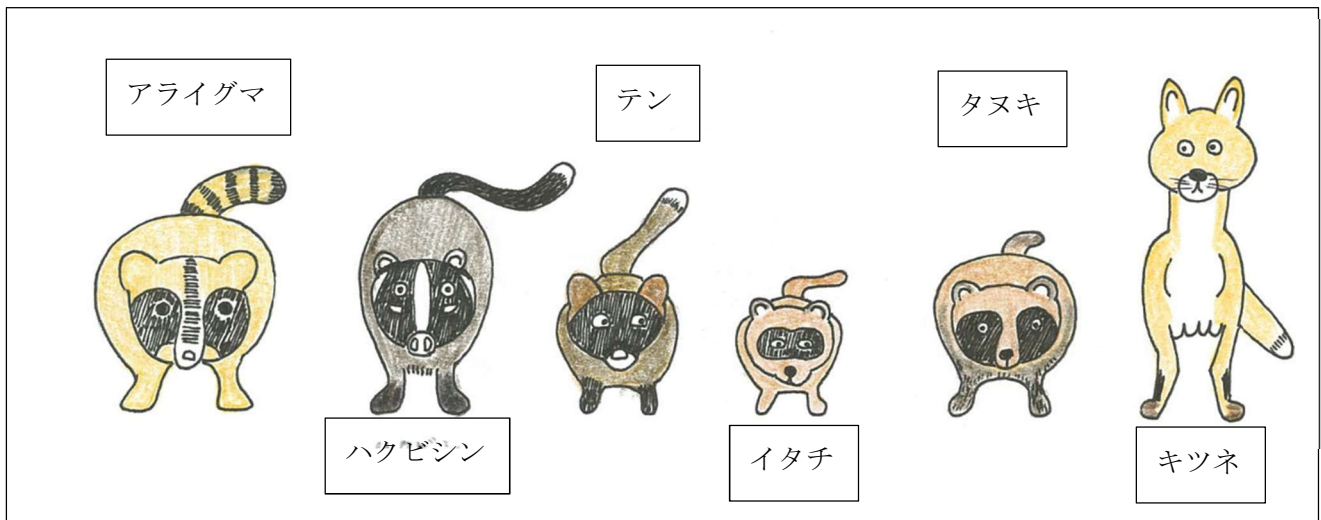
春から夏に向けての散策の注意点

春から夏に向けて山の中では様々な植物の花が咲き乱れ、たくさんの昆虫などが姿を現すようになるのでとても楽しみな季節でもあります。しかし、それと同時にハチやマダニなどの危険な生物も出てくるようになるので注意が必要です。また、気温も高くなってるのでしっかり水分や塩分補給、帽子をかぶること、適度な休憩をとるなど十分な熱中症対策をするようにしましょう。



森の仲間

今回、紹介する森の仲間は、2018年11月から2019年11月末までの間にあいち海上の森センター敷地内で観察された哺乳類たちです。2018年11月28日に3階の屋根に居る①キツネが自動撮影カメラに写り、あいち海上の森センター敷地内の哺乳類について調査を始めました。その結果、3階の屋根を走る②ムササビ、1階外倉庫の天井にぶら下がる③キクガシラコウモリ、中庭に来た④テンをはじめ、⑤タヌキ、⑥ネコ、⑦ノウサギ、⑧アライグマ、⑨ハクビシンが確認されました。この他にヒミズ、ネズミ類、モグラ類と思われる不明個体があり、意外に多くの哺乳類が敷地内で観察できたことに少し驚いています。詳しくは、「海上の森調査報告第9号」をご覧ください。



語り部の一言

昨年の4月から、あいち海上の森センターで働かせていただいて1年が経過しました。自然が近くにある職場なので、毎日たくさんの発見や驚きがあります。小さいころから生き物が好きな自分にとっては毎日出勤するのが楽しみな職場でもあります。この職場に勤務して森の中を歩くと、今まで図鑑や動画、写真でしか見ることがなかった、ムササビ、フクロウ、イタチなどの生き物を実際に自分の目で見ることで感動します。特に印象深かったのは全国的にも見るができなくなっているゲンジボタルやヘイケボタルを実際に見ることができたことです。この職場で働いていると、鳥や虫たちの鳴き声が次々に変わること、先週咲いていた花が咲いておらず、実をつけていることや新しい花が咲いているところを見ると季節の流れの早さを感じられます。

また、鳥の鳴き声を聞くだけで、植物の葉っぱを見るだけで種が特定できる方やその他にも様々な分野に精通された方とお話をさせて頂く機会があり、その知識と経験からたくさんのことを教えていただいています。

まだまだこれからたくさんの発見や驚きに出会えると思うと楽しみです。

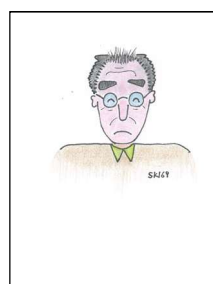
(Y.K)

この人 動物を求めて歩く！

酒井 雅章

海上の森の山道を歩いて巡視をしていると、色々な出来事があります。樹幹に登ったり、枝を走る合間にこちらの様子を伺うニホンリスや巣箱から顔を出すムササビ親子は気持ちを和ませる可愛らしいものです。その一方で、藪の向こう側から「う～」という唸り声や、ガサガサと動く物音がするとイノシシかと驚かされることもあります。次の瞬間に斜面を登るノウサギを見ると「なんだ、ノウサギか」と安心する傍ら「あまり、驚かさないでね」とつぶやいたりもします。また、ある時、林道を歩いていると向こうからタヌキが道ぎわのにおいを嗅ぎながら、腰を左右に振り、こちらに向かってきました。その様子は、さもタヌキばやしに合わせて踊っているようで、少し滑稽な場面でした。10m、5mと私に気づかないのか近づいてきます。ついに、私の横を通り過ぎます。あれほど夢中に、においを嗅いでいたタヌキですが通り過ぎたタヌキを振り返って見ると、タヌキも同じように振り返って私を見ていました。何やら、ニヤッと笑ったように見えた途端、山手の斜面を素早く逃げていきました。私は「あれ」と我に返り、次の瞬間に「タヌキに化かされた」と感じました。この出来事は思い出すたびに愉快で、人に話すことがあります。

キツネは用心深く、そのような仕草は見せません。私に気づけば素早く森の中に消えていきます。先日、ムササビの巣箱の中にいたテンを観察しました。テンも用心深く、私が巣箱に近づくだけでほとんどの場合、巣箱から飛び出し、逃げていきます。しかし、この時は巣箱の中に身を隠し、動きませんでした。何か、逃げられない理由があるのかなと思い自動撮影カメラを仕掛けたところ1頭のテンが撮影されただけでした。このように、海上の森を歩いていると思いがけない出会いがあります。ほとんどの哺乳類は姿を現すことがありません。しかし、私には、怖い遭遇も含めて、楽しいひと時なのです。



《プロフィール》

2012年4月から海上の森の湿地調査、哺乳類、猛禽類、ホトケ沢の観察等に携わり、観察で得た内容をムーアカデミー通信に掲載。海上の森調査報告の担当者として、2020年3月まであいち海上の森センターに勤務。

海上の森調査報告 第9号

海上の森調査報告第9号は平成31年1月から令和1年12月までの間に観察されたムササビや猛禽類等の記録などをまとめたものです。

本冊子はあいち海上の森センターにて配布しておりますのでご希望の方は事務室までお申し出ください。

海上の森の今を示す資料としてぜひご覧ください。



里山サテライトの土間の三和土（たたき）の補修を行いました

サテライトの「かたりべの家」は今の場所に移築されて15年になります。その間、海上の森を訪れる多くの人が休憩したり、海上の森での様々な行事で使ったりと色々と活用してきました。

それに伴い最近では土間の三和土（たたき）の消耗が激しく以前は平らだった表面は削れてデコボコになってしまいました。

今回、損傷の激しい箇所を部分的に三和土で補修しました。その時の様子は以下のとおりです。



砕いた古い三和土を撤去し、下地材の表面をきれいにします。

事前の準備として損傷の激しい箇所を下地部分が見えるまでタガネなどで砕きます。



三和土の用土の準備は、瀬戸の山砂、消石灰をしっかり混ぜます。その後、にがり（塩化マグネシウム水溶液）を加えさらに混ぜます。握って軽くまとまるくらいの感じにするのがポイントです。



この時叩いている道具の面に土が張り付いて剥離するので土の表面をビニールシートなどで覆って叩くようにします。凹んでいる部分は用土を追加しながら仕上がり面まで全体が平らになるように叩いていきます。

施工前、補修する箇所に散水し湿らせておきます。混合した用土を施工箇所に入れ均一に敷きならし、その後、タコや木の板などで叩いて転圧します。



1～2日後に施工箇所の土の表面が乾ききっていない状態のところを再度全体を叩いて締固めます。10日間ほど乾燥させたら完成です。

編集後記

これから初夏に向かい、様々な植物や生き物たちが顔を出すようになり、1週間で森の景色はガラッと変わるので何度も訪れることでその変化を楽しむことができます。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 2020年6月1日

〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kaisho/>